

2. 経済指標分野

県民経済計算の基本指標に関する経年変化と
他県比較(北陸3県、全国)

内閣府で公開されているデータは2014年まで

主要経済指標の変化率比較 (1994年～2014年)

	県内総生産(名目)	県内総生産(実質)	県民所得	1人あたり県民所得	1人あたり県民雇用者報酬	デフレーター
石川県	4.5%	28.4%	1.8%	3.5%	-5.0%	-18.6%
富山県	-2.5%	12.5%	-5.1%	-0.5%	-17.6%	-13.3%
福井県	-4.4%	17.7%	-1.6%	2.9%	-3.4%	-18.8%
全国	4.7%	22.6%	1.4%	-0.1%	-6.3%	-14.6%

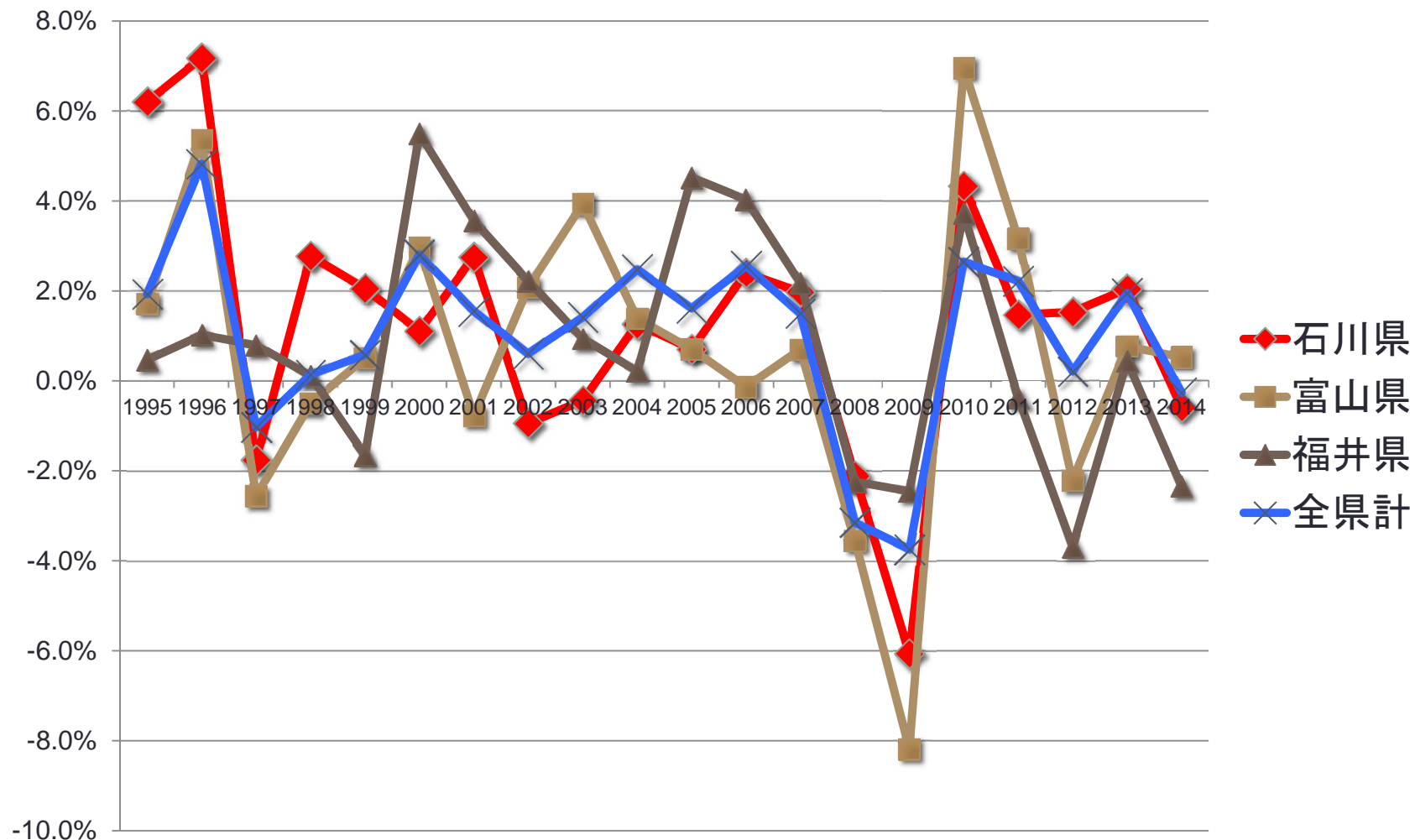
資料：内閣府「県民経済計算」より作成。



石川県は北陸3県の中でも20年間で経済成長率は高い。
ただし、県民所得は県内総生産ほど成長していない。
1人あたり県民雇用者報酬はマイナスであった。

経済成長率の推移(1994年～2014年)

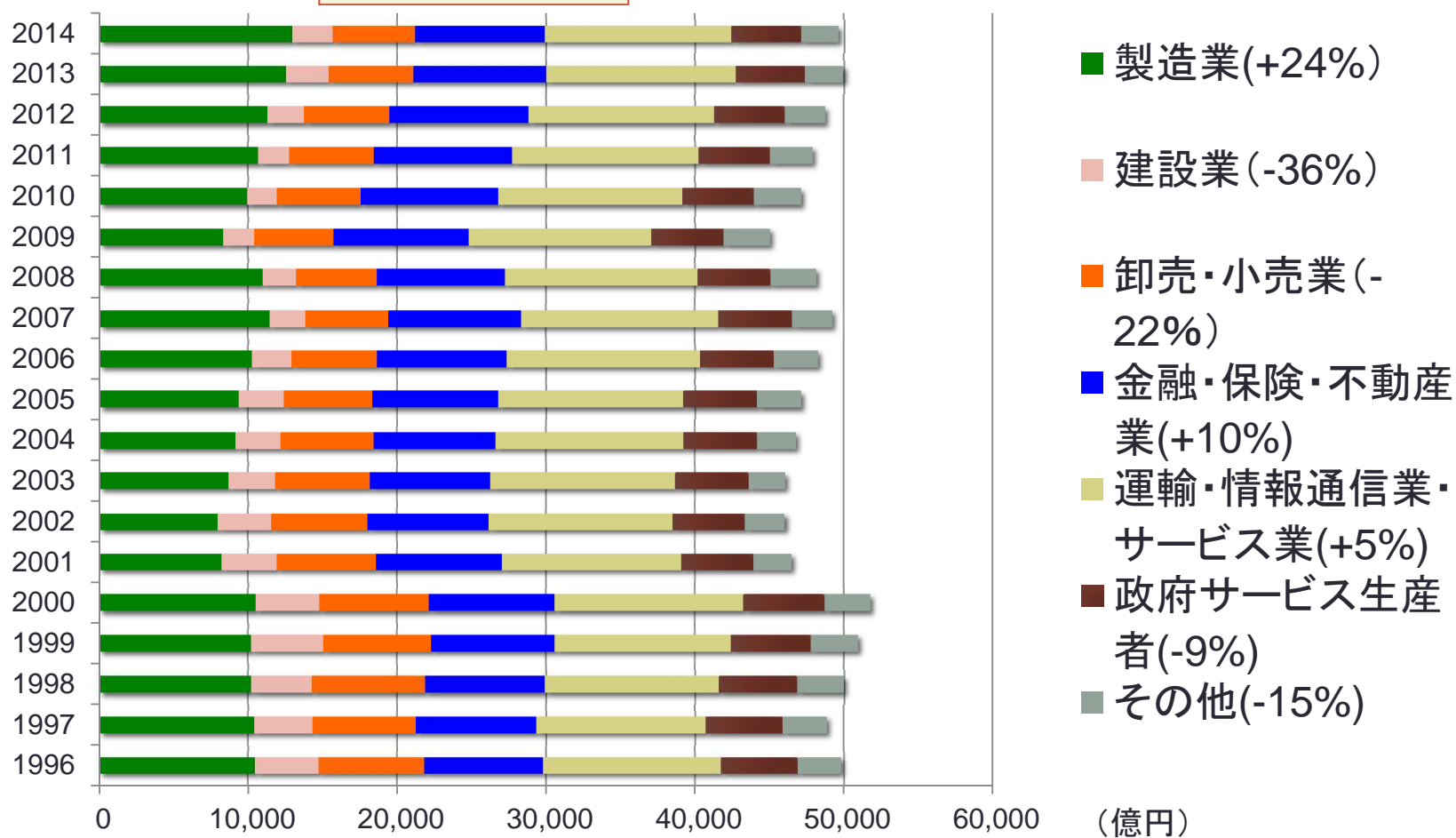
資料：内閣府「県民経済計算」より作成。



経済活動別総生産の推移(1994年～2014年)

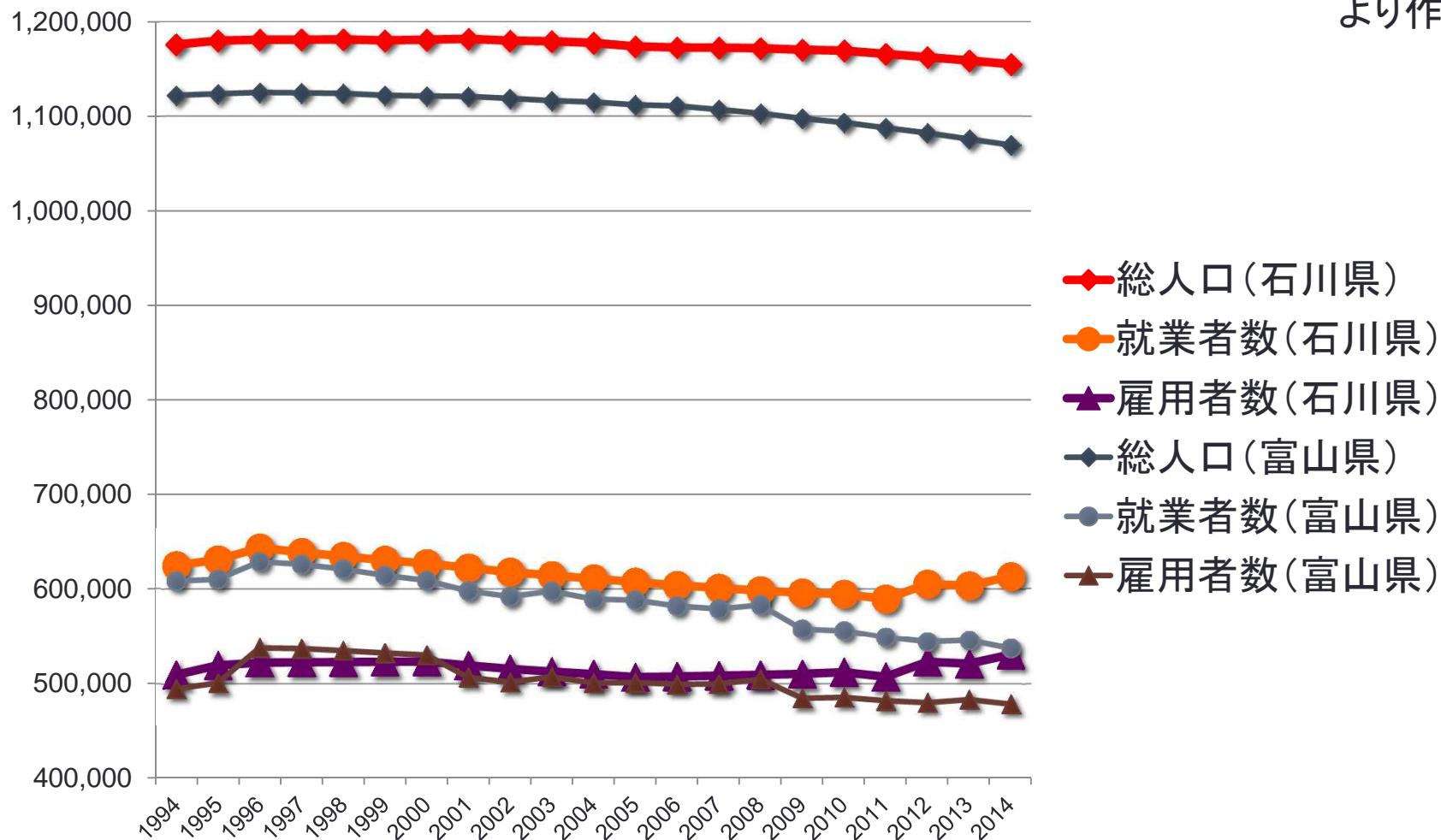
石川県

資料：内閣府「県民経済計算」より作成。

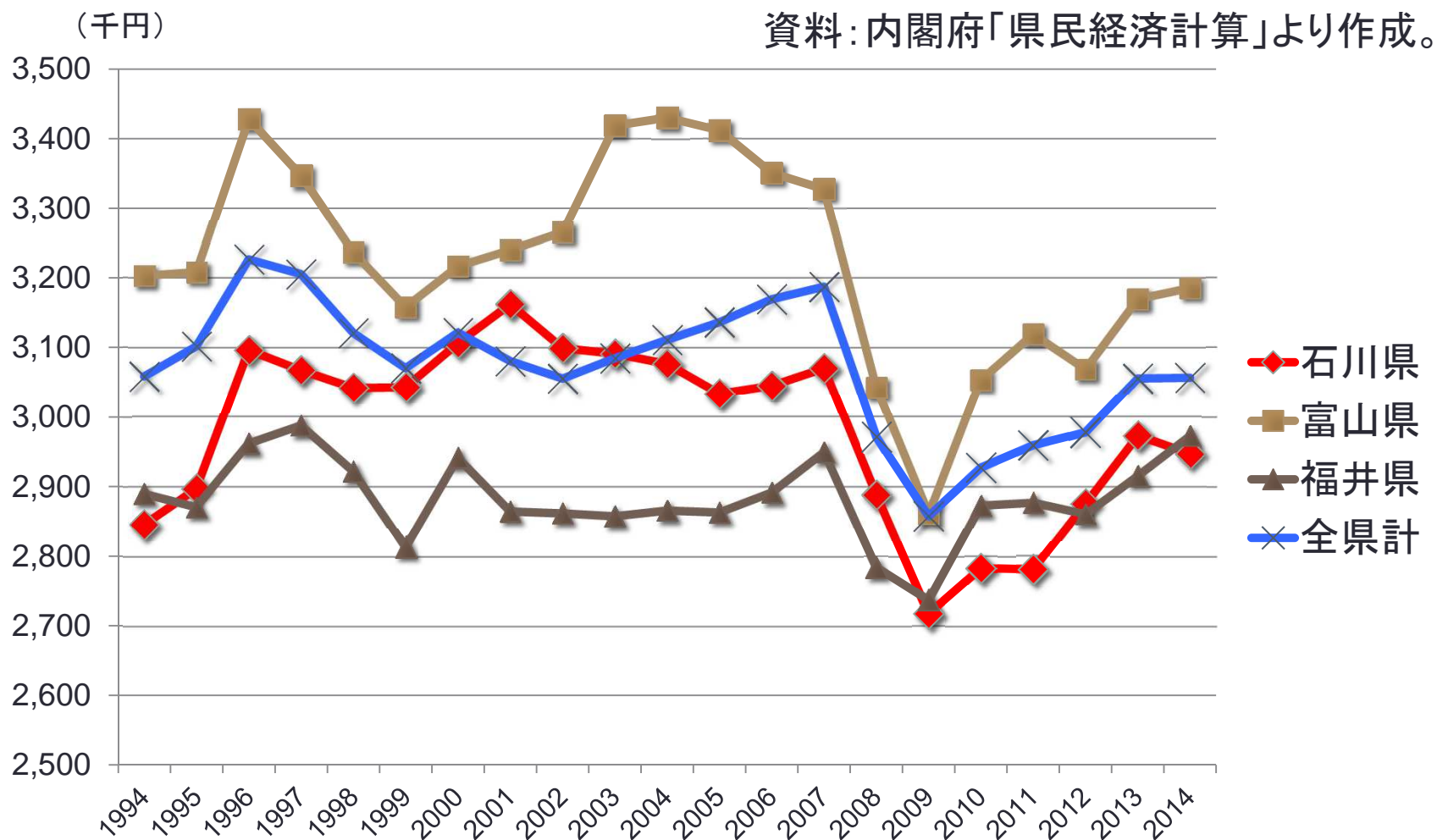


総人口・就業者数・雇用者数の推移

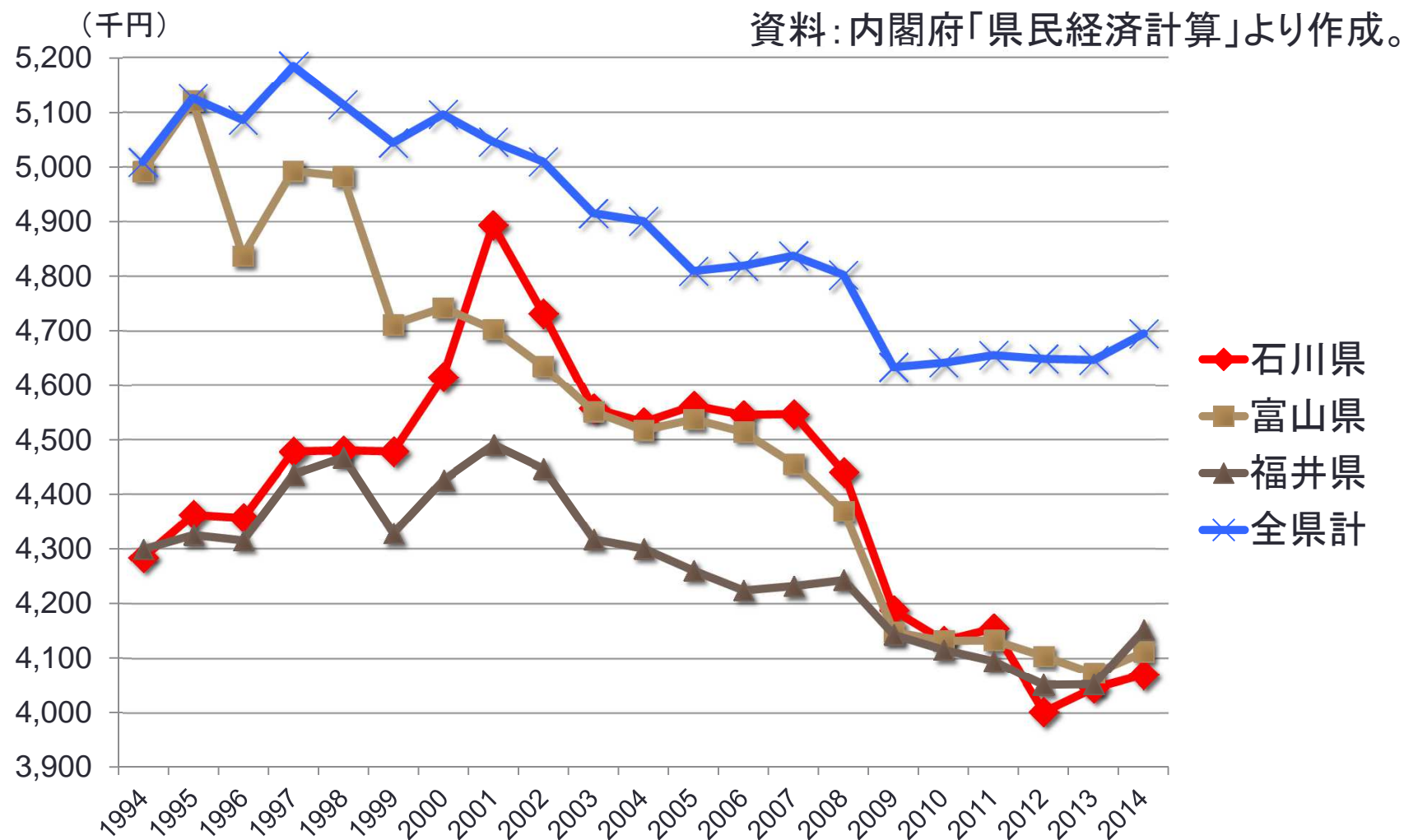
(1994年～2014年、富山県との比較) 資料:内閣府「県民経済計算」より作成。



1人あたり県民所得の推移(1994年~2014年)



1人あたり県民雇用者報酬の推移(1994年~2014年)



分析から見えてくる論点

1. 石川県の経済成長率は、1997年の不況期と2008年前後のリーマンショック期を除いて概ね堅調だった。県内総生産の20年間の実質成長率は28.4%とひとときわ高いが、物価の下落の効果が大きい。
2. 県内総生産の増減は、製造業の盛衰によるところが大きい。20年間で製造業の生産額が増え、建設業の生産額が大きく減った。
3. 総人口は減っているが、就業者数と雇用者数はここ数年で若干回復しており、富山県との違いが顕著である。
4. 県内総生産の成長に比べて県民所得はほとんど増えていない。1人あたり県民所得は、リーマンショックの不況で大きく下がり、その後も不況前の水準までは回復していない。
5. 1人あたり県民雇用者報酬は2001年の時点まで上昇した後、反転し、以降急速に下がっている。2014年時点で1994年の水準を割り込んで、全国水準よりかなり低く、富山・福井とほぼ同水準を推移している。
6. 総じて、経済活動は活発であるが、県民所得とくに労働者に還元される部分に課題があると言えよう。